

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 純子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①ソーシャルワークの目的・使命・価値について理解する。②他者との交流を通じて自己理解、他者理解を深める。③ソーシャルワーカーとしてのコミュニケーション技術の基本を身につける。④本科目と社会福祉士養成に関わる科目で学習する事柄が関連していることに気づき、これらの関連性を総合的に理解する。	本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本中の基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、グループワークやロールプレイ、ゲーム等を通して実感を伴って理解することが期待されます。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。
到達目標	社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解することができる。特に、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性および本講義の目的を理解する。	SWの目的と使命を調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命	SWの価値について調べる
	3	ソーシャルワークの価値	SWの役割について調べる
	4	ソーシャルワーカーの役割	自己覚知について調べる
	5	自己覚知① ライフストーリーを読み解く	課題に取り組む
	6	自己覚知② ワークを通して自己覚知を経験する	他者理解について調べる
	7	自己覚知③ 他者理解	自身の価値について分析する
	8	自己覚知④ 価値観交流、援助者としての価値	課題に取り組む
	9	基本的なコミュニケーション技術①コミュニケーションの基本的理解	コミュニケーションについて調べる
	10	基本的なコミュニケーション技術② 言語的・準言語的コミュニケーション	コミュニケーションについて調べる
	11	基本的なコミュニケーション技術③ 非言語的コミュニケーション	コミュニケーションについて調べる
	12	基本的な面接技術① 受容・傾聴・共感	面接技術について調べる
	13	基本的な面接技術② 受容・傾聴・共感	面接技術について調べる
14	基本的な面接技術③ ラポール形成	面接技術について調べる	
15	基本的な面接技術④ ワーカーの心得	課題に取り組む	
16	まとめ	演習 I をまとめる	
実践	テキスト・参考文献・資料など	特定の教科書はありません。随時、資料を紹介します。	
学びの手立て	①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。		
評価	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習 II, III, IV に活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①ソーシャルワークの目的・使命・価値について理解する。②他者との交流を通じて自己理解、他者理解を深める。③ソーシャルワーカーとしてのコミュニケーション技術の基本を身につける。④本科目と社会福祉士養成に関わる科目で学習する事柄が関連していることに気づき、これらの関連性を総合的に理解する。	本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本中の基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、グループワークやロールプレイ、ゲーム等を通して実感を伴って理解することが期待されます。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。
到達目標	社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解することができる。特に、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性および本講義の目的を理解する。	SWの目的と使命を調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命	SWの価値について調べる
	3	ソーシャルワークの価値	SWの役割について調べる
	4	ソーシャルワーカーの役割	自己覚知について調べる
	5	自己覚知① ライフストーリーを読み解く	課題に取り組む
	6	自己覚知② ワークを通して自己覚知を経験する	他者理解について調べる
	7	自己覚知③ 他者理解	自身の価値について分析する
8	自己覚知④ 価値観交流、援助者としての価値	課題に取り組む	
9	基本的なコミュニケーション技術①コミュニケーションの基本的理解	コミュニケーションについて調べる	
10	基本的なコミュニケーション技術② 言語的・準言語的コミュニケーション	コミュニケーションについて調べる	
11	基本的なコミュニケーション技術③ 非言語的コミュニケーション	コミュニケーションについて調べる	
12	基本的な面接技術① 受容・傾聴・共感	面接技術について調べる	
13	基本的な面接技術② 受容・傾聴・共感	面接技術について調べる	
14	基本的な面接技術③ ラポール形成	面接技術について調べる	
15	基本的な面接技術④ ワーカーの心得	課題に取り組む	
16	まとめ	演習 I をまとめる	
実践	テキスト・参考文献・資料など	特定の教科書はありません。随時、資料を紹介します。	
	学びの手立て	①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。	
	評価	課題（30％）、レポートの内容（30％）、プログラムへの主体的参加（30％）、授業態度（10％）	

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習 II, III, IV に活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①ソーシャルワークの目的・使命・価値について理解する。②他者との交流を通じて自己理解、他者理解を深める。③ソーシャルワーカーとしてのコミュニケーション技術の基本を身につける。④本科目と社会福祉士養成に関わる科目で学習する事柄が関連していることに気づき、これらの関連性を総合的に理解する。	本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本中の基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、グループワークやロールプレイ、ゲーム等を通して実感を伴って理解することが期待されます。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。
到達目標	社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解することができる。特に、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性および本講義の目的を理解する。	SWの目的と使命を調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命	SWの価値について調べる
	3	ソーシャルワークの価値	SWの役割について調べる
	4	ソーシャルワーカーの役割	自己覚知について調べる
	5	自己覚知① ライフストーリーを読み解く	課題に取り組む
	6	自己覚知② ワークを通して自己覚知を経験する	他者理解について調べる
	7	自己覚知③ 他者理解	自身の価値について分析する
	8	自己覚知④ 価値観交流、援助者としての価値	課題に取り組む
	9	基本的なコミュニケーション技術①コミュニケーションの基本的理解	コミュニケーションについて調べる
	10	基本的なコミュニケーション技術② 言語的・準言語的コミュニケーション	コミュニケーションについて調べる
	11	基本的なコミュニケーション技術③ 非言語的コミュニケーション	コミュニケーションについて調べる
	12	基本的な面接技術① 受容・傾聴・共感	面接技術について調べる
	13	基本的な面接技術② 受容・傾聴・共感	面接技術について調べる
14	基本的な面接技術③ ラポール形成	面接技術について調べる	
15	基本的な面接技術④ ワーカーの心得	課題に取り組む	
16	まとめ	演習 I をまとめる	
実践	テキスト・参考文献・資料など	特定の教科書はありません。随時、資料を紹介します。	
学びの手立て	①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。		
評価	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習 II, III, IV に活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮良 あさの	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①ソーシャルワークの目的・使命・価値について理解する。②他者との交流を通じて自己理解、他者理解を深める。③ソーシャルワーカーとしてのコミュニケーション技術の基本を身につける。④本科目と社会福祉士養成に関わる科目で学習する事柄が関連していることに気づき、これらの関連性を総合的に理解する。	本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本中の基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、グループワークやロールプレイ、ゲーム等を通して実感を伴って理解することが期待されます。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。
到達目標	社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解することができる。特に、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性および本講義の目的を理解する。	SWの目的と使命を調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命	SWの価値について調べる
	3	ソーシャルワークの価値	SWの役割について調べる
	4	ソーシャルワーカーの役割	自己覚知について調べる
	5	自己覚知① ライフストーリーを読み解く	課題に取り組む
	6	自己覚知② ワークを通して自己覚知を経験する	他者理解について調べる
	7	自己覚知③ 他者理解	自身の価値について分析する
	8	自己覚知④ 価値観交流、援助者としての価値	課題に取り組む
	9	基本的なコミュニケーション技術①コミュニケーションの基本的理解	コミュニケーションについて調べる
	10	基本的なコミュニケーション技術② 言語的・準言語的コミュニケーション	コミュニケーションについて調べる
	11	基本的なコミュニケーション技術③ 非言語的コミュニケーション	コミュニケーションについて調べる
	12	基本的な面接技術① 受容・傾聴・共感	面接技術について調べる
	13	基本的な面接技術② 受容・傾聴・共感	面接技術について調べる
	14	基本的な面接技術③ ラポール形成	面接技術について調べる
15	基本的な面接技術④ ワーカーの心得	課題に取り組む	
16	まとめ	演習 I をまとめる	

実践	テキスト・参考文献・資料など 特定の教科書はありません。随時、資料を紹介します。
----	---

学びの手立て	①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。
--------	---

評価	課題 (30%)、レポートの内容 (30%)、プログラムへの主体的参加 (30%)、授業態度 (10%)
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習 II, III, IV に活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅱ	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮良 あさの	2年	本学のメールアドレス(ptt1136@okiu.ac.jp)に連絡下さい。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①多領域のソーシャルワーク実践を学び、ソーシャルワークの多様性を学ぶと同時にソーシャルワーク実践の共通点を学ぶ。</p> <p>②社会的排除・格差、虐待、暴力、その他今日の社会問題の解決に向けた支援を総合的、包括的に学ぶ。</p> <p>③相談援助実習指導Ⅰで実施する施設体験学習につながる知識を学ぶ。</p>	<p>ソーシャルワーカーの活躍の場は多分野にわたっている。相談援助演習Ⅱでは、ソーシャルワークが具体的にどのような場所で、また、どのような方法で展開しているのか学びます。</p>
到達目標	<p>ソーシャルワークが実際にはどのように展開されているのか理解を深めることができる。 また、援助のプロセスにおいて知識や技術がどのように活かされているか理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション	SWの倫理綱領を復習する
	2	(特) ソーシャルワーカーの役割	現場体験学習をまとめる
	3	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する①社会的排除	現場体験学習をまとめる
	4	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する②虐待（高齢者）	グループ発表の準備をする
	5	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する③虐待（障害者）	グループ発表の準備をする
	6	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する④家庭内暴力	インタビューの準備をする
	7	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する⑤ホームレス	インタビューの準備をする
	8	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する⑥地域包括ケア	インタビューをまとめる
	9	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する⑦地域福祉（社会福祉協議会）	インタビューをまとめる
	10	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する⑧地域福祉（自治会、NPO）	グループ発表の準備をする
	11	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する⑨更生保護	グループ発表の準備をする
	12	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する⑩権利擁護活動	レポート課題に取り組む
	13	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する⑪低所得者	レポート課題に取り組む
14	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する⑫国際社会福祉	個別面談の準備をする	
15	(対) まとめ①	個別面談の準備をする	
16	(特) まとめ②	演習のまとめをする	
テキスト・参考文献・資料など	<p>特定の教科書はありません。各教員が、随時、文献や資料を紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。</p>		
評価	<p>課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅱ	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 純子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①多領域のソーシャルワーク実践を学び、ソーシャルワークの多様性を学ぶと同時にソーシャルワーク実践の共通点を学ぶ。</p> <p>②社会的排除・格差、虐待、暴力、その他今日の社会問題の解決に向けた支援を総合的、包括的に学ぶ。</p> <p>③相談援助実習指導Ⅰで実施する施設体験学習につながる知識を学ぶ。</p>	<p>ソーシャルワーカーの活躍の場は多分野にわたっている。相談援助演習Ⅱでは、ソーシャルワークが具体的にどのような場所で、また、どのような方法で展開しているのか学びます。</p>
到達目標	<p>ソーシャルワークが実際にはどのように展開されているのか理解を深めることができる。 また、援助のプロセスにおいて知識や技術がどのように活かされているか理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション	SWの倫理綱領を復習する
	2	(特) ソーシャルワーカーの役割	現場体験学習をまとめる
	3	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する①社会的排除	現場体験学習をまとめる
	4	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する②虐待（高齢者）	グループ発表の準備をする
	5	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する③虐待（障害者）	グループ発表の準備をする
	6	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する④家庭内暴力	インタビューの準備をする
	7	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する⑤ホームレス	インタビューの準備をする
	8	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する⑥地域包括ケア	インタビューをまとめる
	9	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する⑦地域福祉（社会福祉協議会）	インタビューをまとめる
	10	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する⑧地域福祉（自治会、NPO）	グループ発表の準備をする
	11	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する⑨更生保護	グループ発表の準備をする
	12	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する⑩権利擁護活動	レポート課題に取り組む
	13	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する⑪低所得者	レポート課題に取り組む
14	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する⑫国際社会福祉	個別面談の準備をする	
15	(対) まとめ①	個別面談の準備をする	
16	(特) まとめ②	演習のまとめをする	
テキスト・参考文献・資料など	<p>特定の教科書はありません。各教員が、随時、文献や資料を紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動を楽しみましょう。</p>		
評価	<p>課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅱ	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	2年	ポータル授業連絡への返信や、教員のE-mailに連絡してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①多領域のソーシャルワーク実践を学び、ソーシャルワークの多様性を学ぶと同時にソーシャルワーク実践の共通点を学ぶ。</p> <p>②社会的排除・格差、虐待、暴力、その他今日の社会問題の解決に向けた支援を総合的、包括的に学ぶ。</p> <p>③相談援助実習指導Ⅰで実施する施設体験学習につながる知識を学ぶ。</p>	<p>ソーシャルワーカーの活躍の場は多分野にわたっている。相談援助演習Ⅱでは、ソーシャルワークが具体的にどのような場所で、また、どのような方法で展開しているのか学びます。</p>
到達目標	<p>ソーシャルワークが実際にはどのように展開されているのか理解を深めることができる。 また、援助のプロセスにおいて知識や技術がどのように活かされているか理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	(特) オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWの倫理綱領を復習する	
	2	(対) ソーシャルワーカーの役割	利用者理解の方法について調べる	
	3	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する①社会的排除	実習機関・施設の動向を調べる	
	4	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する②虐待（高齢者）	利用者の動向や利用状況を調べる	
	5	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する③虐待（障害者）	グループ発表の準備をする	
	6	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する④家庭内暴力	グループ発表の準備をする	
	7	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する⑤ホームレス	インタビューの準備をする	
	8	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する⑥地域包括ケア	インタビューの準備をする	
	9	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する⑦地域福祉（社会福祉協議会）	インタビューをまとめる	
	10	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する⑧地域福祉（自治会、NPO）	インタビューをまとめる	
	11	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する⑨更生保護	グループ発表の準備をする	
	12	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する⑩権利擁護活動	グループ発表の準備をする	
	13	(特) 社会福祉専門職の実践を理解する⑪低所得者	レポート課題に取り組む	
14	(対) 社会福祉専門職の実践を理解する⑫国際社会福祉	レポート課題に取り組む		
15	(特) まとめ①	個別面談の準備をする		
16	(対) まとめ②	演習のまとめをする		
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>		
	学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。</p>		
	評価	<p>課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①多領域のソーシャルワーク実践を学び、ソーシャルワークの多様性を学ぶと同時にソーシャルワーク実践の共通点を学ぶ。</p> <p>②社会的排除・格差、虐待、暴力、その他今日の社会問題の解決に向けた支援を総合的、包括的に学ぶ。</p> <p>③相談援助実習指導Ⅰで実施する施設体験学習につながる知識を学ぶ。</p>	<p>ソーシャルワーカーの活躍の場は多分野にわたっている。相談援助演習Ⅱでは、ソーシャルワークが具体的にどのような場所で、また、どのような方法で展開しているのか学びます。</p>
到達目標	<p>ソーシャルワークが実際にはどのように展開されているのか理解を深めることができる。 また、援助のプロセスにおいて知識や技術がどのように活かされているか理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対)オリエンテーション	SWの倫理綱領を復習する
	2	(特)ソーシャルワーカーの役割	現場体験学習をまとめる
	3	(対)社会福祉専門職の実践を理解する①社会的排除	現場体験学習をまとめる
	4	(特)社会福祉専門職の実践を理解する②虐待(高齢者)	グループ発表の準備をする
	5	(対)社会福祉専門職の実践を理解する③虐待(障害者)	グループ発表の準備をする
	6	(特)社会福祉専門職の実践を理解する④家庭内暴力	インタビューの準備をする
	7	(対)社会福祉専門職の実践を理解する⑤ホームレス	インタビューの準備をする
	8	(特)社会福祉専門職の実践を理解する⑥地域包括ケア	インタビューをまとめる
	9	(対)社会福祉専門職の実践を理解する⑦地域福祉(社会福祉協議会)	インタビューをまとめる
	10	(特)社会福祉専門職の実践を理解する⑧地域福祉(自治会、NPO)	グループ発表の準備をする
	11	(対)社会福祉専門職の実践を理解する⑨更生保護	グループ発表の準備をする
	12	(特)社会福祉専門職の実践を理解する⑩権利擁護活動	レポート課題に取り組む
	13	(対)社会福祉専門職の実践を理解する⑪低所得者	レポート課題に取り組む
14	(特)社会福祉専門職の実践を理解する⑫国際社会福祉	個別面談の準備をする	
15	(対)まとめ①	個別面談の準備をする	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>特定の教科書はありません。各教員が、随時、文献や資料を紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動を楽しみましょう。</p>		
評価	<p>課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、授業態度(10%)</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉専門職者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅲ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村 小夜子	2年	メール又は対面講義時に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①相談援のプロセスを段階ごとに学び、それぞれの段階で支援者はどのような支援を行うのか学ぶ。②相談援助演習I・II、相談援助の理論と方法など、関連する科目で得た知識や技術を活かして相談援助のプロセスの理解を深める。	本演習は、関連科目で学んだことと連動させながら、具体的に相談援助のプロセスを学びます。グループワーク、ロールプレイ、ディスカッションを取り入れて授業を進めますし、福祉実践の現場を訪問してソーシャルワーカーからも学びますので、学生の積極的参加が求められます。
到達目標	相談援助のプロセスを理解し説明できる。ソーシャルワーカーの役割について説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション	SWのグローバル定義復習
	2	(特) 相談援助の機能	SWの倫理綱領復習
	3	(対) 相談援助の対象とニーズ	配布資料復習
	4	(特) ニーズの発見①	グループ課題の準備
	5	(対) ニーズの発見②	グループ課題の準備
	6	(特) インテーク	グループ課題の準備
	7	(対) アセスメント①	グループ課題の準備
	8	(特) アセスメント②	グループ課題の準備
	9	(対) プランニング	実践事例について調べる
	10	(特) 支援の実際①	実践事例について調べる
	11	(対) 支援の実際②	実践事例について調べる
	12	(特) モニタリング、効果測定①	個別課題に取り組む
	13	(対) モニタリング、効果想定②	個別課題に取り組む
14	(特) 終結、アフターケア①	個別課題に取り組む	
15	(対) 終結、アフターケア②	演習のふりかえり	
16	(特) まとめ	演習のふりかえり	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストはありません。講義時に随時紹介します。		
学びの手立て	①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。		
評価	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅳに活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉専門職者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅲ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	授業終了後に教室で受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①相談援のプロセスを段階ごとに学び、それぞれの段階で支援者はどのような支援を行うのか学びます。</p> <p>②福祉施設を訪問し、実際の事例を学び、支援計画を立てる練習をします。</p> <p>③相談援助演習ⅠⅡ、相談援助の理論と方法など、関連する科目で得た知識や技術を活かして相談援助のプロセスの理解を深めます。</p>	<p>本演習では、関連科目で学んだことと連動させながら、具体的に相談援助のプロセスを学びます。グループワーク、ロールプレイ、ディスカッションを取り入れて授業を進めます。</p> <p>また、福祉施設を訪問し、実際の支援プロセスを学ぶと共に学生が支援プロセスを考え発表します。現場のソーシャルワーカーからコメントをいただきます。</p>
到達目標	相談援助のプロセスを理解し説明できる。 ソーシャルワーカーの役割について説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	SWのグローバル定義復習
	2	相談援助の機能	SWの倫理綱領復習
	3	相談援助の対象とニーズ	配布資料復習
	4	ニーズの発見①	グループ課題の準備
	5	ニーズの発見②	グループ課題の準備
	6	インテーク	グループ課題の準備
	7	アセスメント①	グループ課題の準備
	8	アセスメント②	グループ課題の準備
	9	プランニング	実践事例について調べる
	10	支援の実際①	実践事例について調べる
	11	支援の実際②	実践事例について調べる
	12	モニタリング、効果測定①	個別課題に取り組む
	13	モニタリング、効果想定②	個別課題に取り組む
14	終結、アフターケア①	個別課題に取り組む	
15	終結、アフターケア②	演習のふりかえり	
16	まとめ	演習のふりかえり	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストはありません。講義時に随時紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。</p>		
評価	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅳに活かしていくことを期待します。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉専門職者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅲ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	2年	授業連絡から返信、教員のE-mailへ連絡してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①相談援のプロセスを段階ごとに学び、それぞれの段階で支援者はどのような支援を行うのか学ぶ。②相談援助演習I・II、相談援助の理論と方法など、関連する科目で得た知識や技術を活かして相談援助のプロセスの理解を深める。	本演習は、関連科目で学んだことと連動させながら、具体的に相談援助のプロセスを学びます。グループワーク、ロールプレイ、ディスカッションを取り入れて授業を進めますし、福祉実践の現場を訪問してソーシャルワーカーからも学びますので、学生の積極的参加が求められます。
到達目標	相談援助のプロセスを理解し説明できる。ソーシャルワーカーの役割について説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	SWのグローバル定義復習
	2	(対) 相談援助の機能	SWの倫理綱領復習
	3	(特) 相談援助の対象とニーズ	配布資料復習
	4	(対) ニーズの発見①	グループ課題の準備
	5	(特) ニーズの発見②	グループ課題の準備
	6	(対) インテーク	グループ課題の準備
	7	(特) アセスメント①	グループ課題の準備
	8	(対) アセスメント②	グループ課題の準備
	9	(特) プランニング	実践事例について調べる
	10	(対) 支援の実際①	実践事例について調べる
	11	(特) 支援の実際②	実践事例について調べる
	12	(対) モニタリング、効果測定①	個別課題に取り組む
	13	(特) モニタリング、効果想定②	個別課題に取り組む
14	(対) 終結、アフターケア①	個別課題に取り組む	
15	(特) 終結、アフターケア②	演習のふりかえり	
16	(対) まとめ	演習のふりかえり	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。</p>		
評価	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅳに活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉専門職者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅲ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹藤 登	2年	授業終了後に教室で受け付けます。メール take10140730@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①相談援のプロセスを段階ごとに学び、それぞれの段階で支援者はどのような支援を行うのか学ぶ。②相談援助演習ⅠⅡ、相談援助の理論と方法など、関連する科目で得た知識や技術を活かして相談援助のプロセスの理解を深める。	本演習は、関連科目で学んだことと連動させながら、具体的に相談援助のプロセスを学びます。グループワーク、ロールプレイ、ディスカッションを取り入れて授業を進めますし、福祉実践の現場を訪問してソーシャルワーカーからも学びますので、学生の積極的参加が求められます。
到達目標	相談援助のプロセスを理解し説明できる。ソーシャルワーカーの役割について説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	SWのグローバル定義復習
	2	相談援助の機能	SWの倫理綱領復習
	3	相談援助の対象とニーズ	配布資料復習
	4	ニーズの発見①	グループ課題の準備
	5	ニーズの発見②	グループ課題の準備
	6	インテーク	グループ課題の準備
	7	アセスメント①	グループ課題の準備
	8	アセスメント②	グループ課題の準備
	9	プランニング	実践事例について調べる
	10	支援の実際①	実践事例について調べる
	11	支援の実際②	実践事例について調べる
	12	モニタリング、効果測定①	個別課題に取り組む
	13	モニタリング、効果想定②	個別課題に取り組む
14	終結、アフターケア①	個別課題に取り組む	
15	終結、アフターケア②	演習のふりかえり	
16	まとめ	演習のふりかえり	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストはありません。講義時に随時紹介します。		
学びの手立て	①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動を楽しみましょう。		
評価	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅳに活かしていくことを期待します。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅳ	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村 小夜子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域社会資源の開発および地域ネットワーキング、コーディネーションについて専門知識や技術を身につける。また、相談援助実習で学んだことをジェネラリストソーシャルワークの視点から振り返りつつ、相談援助演習のまとめを行う。	相談援助演習はⅠⅡⅢⅣを通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習ⅠⅡⅢⅣと相談援助実習指導ⅠⅡⅢが連続していることを意識しつつ講義に参加してください。
到達目標	相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ゼミの概要説明。地域資源	配布資料を読み込む
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	グループ発表の準備をする
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	グループ発表の準備をする
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	グループ発表の準備をする
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	グループ発表の準備をする
	6	プランニング②：地域福祉計画の策定	グループ発表の準備をする
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	9	評価：活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	課題（事例検討）に取り組む
	10	ネットワーキング：事例を通して地域の社会資源のネットワーキングの手法を理解する	グループ発表の準備をする
	11	社会資源の活用・調整：事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	グループ発表の準備をする
	12	社会資源の開発：新たに社会資源を開発する方法について理解する	グループ発表の準備をする
	13	ソーシャルアクション：事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	グループ発表の準備をする
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点：相談援助実習時の課題について理解する	レポート課題に取り組む
	15	前期まとめ	前期のまとめを行う
	16	(対) 後期オリエンテーション：演習の概要説明。実習のふりかえり	配布資料を読み込む
	17	(特) 実習での学びをふりかえる①課題整理	発表準備
	18	(対) 実習での学びをふりかえる②課題整理	発表準備
	19	(特) 実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	ディスカッションをまとめる
	20	(対) 実習での学びをふりかえる③個別発表(2)	ディスカッションをまとめる
	21	(特) 実習での学びをふりかえる③個別発表(3)	ディスカッションをまとめる
	22	(対) 実習での学びをふりかえる③個別発表(4)	ディスカッションをまとめる
	23	(特) 実習での学びをふりかえる③個別発表(5)	ディスカッションをまとめる
	24	(対) 実習での学びをふりかえる③個別発表(6)	ディスカッションをまとめる
	25	(特) 実習での学びをふりかえる③個別発表(7)	ディスカッションをまとめる
	26	(対) ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	配布資料を要約する
	27	(特) ソーシャルワーカーの価値・倫理①スーパービジョンの意義、方法	配布資料を読み込む
	28	(対) ソーシャルワーカーの価値・倫理②	配布資料を読み込む
29	(特) 他の職種との連携・協働の意義	課題に取り組む	
30	(対) スーパービジョンの意義、方法	課題に取り組む	
31	(特) まとめ	相談援助演習の総まとめを行う	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 地域の社会資源を発掘、発展する技術について理解を深めましょう。相談援助実習で学んだことを分析する力を身につけましょう。積極的にボランティアをして視野を広げましょう。</p>
	<p>評価 講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 相談援助演習の集大成をしっかり行い、社会福祉学研究および卒業後のキャリアにつなげられるようにする。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅳ	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	ポータル授業連絡への返信や、教員のE-mailへ連絡してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域社会資源の開発および地域ネットワーキング、コーディネーションについて専門知識や技術を身につける。また、相談援助実習で学んだことをジェネラリストソーシャルワークの視点から振り返りつつ、相談援助演習のまとめを行う。	相談援助演習はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが連続していることを意識しつつ講義に参加してください。
	到達目標	
	相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ゼミの概要説明。地域資源	配布資料を読み込む
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	グループ発表の準備をする
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	グループ発表の準備をする
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	グループ発表の準備をする
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	グループ発表の準備をする
	6	プランニング②：地域福祉計画の策定	グループ発表の準備をする
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	9	評価：活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	課題（事例検討）に取り組む
	10	ネットワーキング：事例を通して地域の社会資源のネットワーキングの手法を理解する	グループ発表の準備をする
	11	社会資源の活用・調整：事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	グループ発表の準備をする
	12	社会資源の開発：新たに社会資源を開発する方法について理解する	グループ発表の準備をする
	13	ソーシャルアクション：事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	グループ発表の準備をする
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点：相談援助実習時の課題について理解する	レポート課題に取り組む
	15	前期まとめ	前期のまとめを行う
	16	(特) 後期オリエンテーション：演習の概要説明。実習のふりかえり	実習時の課題を振り返る
	17	(対) 実習での学びをふりかえる①課題整理	ディスカッションをまとめる
	18	(特) 実習での学びをふりかえる②課題整理	ディスカッションをまとめる
	19	(対) 実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	分野別発表の準備をする
	20	(特) 実習での学びをふりかえる③個別発表(2)	分野別発表の準備をする
	21	(対) 実習での学びをふりかえる③個別発表(3)	ディスカッションをまとめる
	22	(特) 実習での学びをふりかえる③個別発表(4)	ディスカッションをまとめる
	23	(対) 実習での学びをふりかえる③個別発表(5)	個別発表の準備をする
	24	(特) 実習での学びをふりかえる③個別発表(6)	個別発表の準備をする
	25	(対) 実習での学びをふりかえる③個別発表(7)	個別発表の準備をする
	26	(特) ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	配布資料を要約する
	27	(対) ソーシャルワーカーの価値・倫理①	配布資料を読み込む
	28	(特) ソーシャルワーカーの価値・倫理②	配布資料を読み込む
	29	(対) 他の職種との連携・協働の意義	課題に取り組む
30	(特) スーパービジョンの意義、方法	課題に取り組む	
31	(対) まとめ	相談援助演習の総まとめを行う	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>地域の社会資源を発掘、発展する技術について理解を深めましょう。相談援助実習で学んだことを分析する力を身につけましょう。積極的にボランティアをして視野を広げましょう。</p>
	<p>評価</p> <p>講義への参加度 20%</p> <p>予習を兼ねた宿題の提出状況 25%</p> <p>グループ研究発表会の準備および内容 25%</p> <p>個別発表会の準備および内容 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>相談援助演習の集大成をしっかり行い、社会福祉学研究および卒業後のキャリアにつなげられるようにする。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅳ	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹藤 登	3年	授業終了後に教室で受け付けます。 メール take10140730@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域社会資源の開発および地域ネットワーキング、コーディネーションについて専門知識や技術を身につける。また、相談援助実習で学んだことをジェネラリストソーシャルワークの視点から振り返りつつ、相談援助演習のまとめを行う。	相談援助演習はⅠⅡⅢⅣを通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習ⅠⅡⅢⅣと相談援助実習指導ⅠⅡⅢが連続していることを意識しつつ講義に参加してください。
到達目標	相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	自分の住んでいる地域の特徴を考える	地域の特徴を調査する
	2	自分の住んでいる地域の社会福祉の課題を整理しまとめる。	地域の課題を調査する
	3	自分の住んでいる地域の社会福祉関連の社会資源を調査しまとめる。	地域の社会資源を調査する
	4	自分もしくは家族が利用している社会福祉の社会資源を整理しまとめる。	社会資源利用状況を調査する
	5	社会福祉の課題に対して、解決方法を模索して解決案をまとめる。	社会福祉課題の解決案を考察する
	6	社会福祉の課題に対して、地域の社会資源を調査しまとめる。	地域の具体的社会資源の調査
	7	地域福祉解決課題の為の福祉ネットワークの現状を調査する。	地域福祉ネットワークの調査
	8	地域福祉ネットワークの課題を整理しまとめる。	地域ネットワークの課題を整理する
	9	自分の住んでいる地域の特徴、地域の良いところと課題をそれぞれ発表する。	自分の住んでいる地域を調べる。
	10	地域ごとにグループをつくり地域の福祉課題を整理する。	グループ発表の準備をする
	11	地域ごとに整理された福祉課題に対して、グループで解決方法を模索する。	グループ発表の準備をする
	12	事例検討 地域移行する利用者の社会資源をグループで調査しそれぞれ発表する。	グループ発表の準備をする
	13	事例検討 地域移行する利用者の課題をグループで整理する。	グループ発表の準備をする
	14	事例検討 地域移行する利用者の課題の解決策を個別で検討する。	レポート課題に取り組む
	15	事例検討 個別で検討した課題をグループで解決案をまとめる。	グループ発表の準備をする
	16	後期オリエンテーション：演習の概要説明。実習のふりかえり	配布資料を読み込む
	17	実習での学びをふりかえる①課題整理	発表準備
	18	実習での学びをふりかえる②課題整理	発表準備
	19	実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	ディスカッションをまとめる
	20	実習での学びをふりかえる③個別発表(2)	ディスカッションをまとめる
	21	実習での学びをふりかえる③個別発表(3)	ディスカッションをまとめる
	22	実習での学びをふりかえる③個別発表(4)	ディスカッションをまとめる
	23	実習での学びをふりかえる③個別発表(5)	ディスカッションをまとめる
	24	実習での学びをふりかえる③個別発表(6)	ディスカッションをまとめる
	25	実習での学びをふりかえる③個別発表(7)	ディスカッションをまとめる
	26	ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	配布資料を要約する
	27	ソーシャルワーカーの価値・倫理①	配布資料を読み込む
	28	ソーシャルワーカーの価値・倫理②	配布資料を読み込む
29	他の職種との連携・協働の意義	課題に取り組む	
30	スーパービジョンの意義、方法	課題に取り組む	
31	まとめ	相談援助演習の総まとめを行う	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 地域の社会資源を発掘、発展する技術について理解を深めましょう。相談援助実習で学んだことを分析する力を身につけましょう。積極的にボランティアをして視野を広げましょう。</p>
	<p>評価 講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 相談援助演習の集大成をしっかりと行い、卒業後のキャリアにつなげられるようにする</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅳ	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 地域社会資源の開発および地域ネットワーキング、コーディネーションについて専門知識や技術を身につける。また、相談援助実習で学んだことをジェネラリストソーシャルワークの視点から振り返りつつ、相談援助演習のまとめを行う。	メッセージ 相談援助演習はⅠⅡⅢⅣを通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習ⅠⅡⅢⅣと相談援助実習指導ⅠⅡⅢが連続していることを意識しつつ講義に参加してください。
	到達目標 相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ゼミの概要説明。地域資源	配布資料を読み込む
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	グループ発表の準備をする
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	グループ発表の準備をする
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	グループ発表の準備をする
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	グループ発表の準備をする
	6	プランニング②：地域福祉計画の策定	グループ発表の準備をする
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	9	評価：活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	課題（事例検討）に取り組む
	10	ネットワーキング：事例を通して地域の社会資源のネットワーキングの手法を理解する	グループ発表の準備をする
	11	社会資源の活用・調整：事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	グループ発表の準備をする
	12	社会資源の開発：新たに社会資源を開発する方法について理解する	グループ発表の準備をする
	13	ソーシャルアクション：事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	グループ発表の準備をする
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点：相談援助実習時の課題について理解する	レポート課題に取り組む
	15	前期まとめ	前期のまとめを行う
	16	(対)後期オリエンテーション：演習の概要説明。実習のふりかえり	配布資料を読み込む
	17	(特)実習での学びをふりかえる①課題整理	発表準備
	18	(対)実習での学びをふりかえる②課題整理	発表準備
	19	(特)実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	ディスカッションをまとめる
	20	(対)実習での学びをふりかえる③個別発表(2)	ディスカッションをまとめる
	21	(特)実習での学びをふりかえる③個別発表(3)	ディスカッションをまとめる
	22	(対)実習での学びをふりかえる③個別発表(4)	ディスカッションをまとめる
	23	(特)実習での学びをふりかえる③個別発表(5)	ディスカッションをまとめる
	24	(対)実習での学びをふりかえる③個別発表(6)	ディスカッションをまとめる
	25	(特)実習での学びをふりかえる③個別発表(7)	ディスカッションをまとめる
	26	(対)ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	配布資料を要約する
	27	(特)ソーシャルワーカーの価値・倫理①	配布資料を読み込む
	28	(対)ソーシャルワーカーの価値・倫理②	配布資料を読み込む
	29	(特)他の職種との連携・協働の意義	課題に取り組む
30	(対)スーパービジョンの意義、方法	課題に取り組む	
31	(特)まとめ	相談援助演習の総まとめを行う	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配布する。</p>
	<p>学びの手立て 地域の社会資源を発掘、発展する技術について理解を深めましょう。相談援助実習で学んだことを分析する力を身につけましょう。積極的にボランティアをして視野を広げましょう。</p>
	<p>評価 講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 相談援助演習の集大成をしっかり行い、社会福祉学研究および卒業後のキャリアにつなげられるようにする。</p>

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーに実践活動を重視した教育を掲げている。本科目を理論と実践を結びつける基礎科目として位置づけている。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅰ	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 純子	2年	講義の最後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>*相談援助実習では相談援助にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。そのため、本科目では本実習の事前学習：「現場体験学習」として現場に出向きその準備を行う。具体的には、「現場体験学習」の意義や施設理解を深める。特に地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解に焦点を置く。</p>	<p>現場理解のために、授業関連だけではなく、ボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。</p>
到達目標	授業及び「現場体験学習」を通して、地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (授業の主旨・展開・最終目標について)	グローバル定義について調べる
	2	社会福祉士の価値と倫理① ソーシャルワークのグローバル定義	倫理綱領について調べる
	3	社会福祉士の価値と倫理② 倫理綱領	守秘義務について調べる
	4	社会福祉士の価値と倫理③ 守秘義務、利用者のプライバシーと個人情報	グループで施設理解に向けて準備
	5	現場体験学習に向けてのオリエンテーションⅠ (体験学習の主旨説明)	グループで施設理解に向けて準備
	6	施設理解① 高齢者施設	施設の法的根拠について調べる
	7	施設理解② 障害児者施設 (児童)	施設の法的根拠について調べる
8	施設理解③ 障害児者施設 (就労、地域生活支援)	施設の法的根拠について調べる	
9	施設理解④ 児童施設	施設の法的根拠について調べる	
10	現場体験学習に向けてのオリエンテーションⅡ (学習配属先、事前訪問方法、その他)	コミュニケーション技法を調べる	
11	利用者とのコミュニケーション①	コミュニケーション技法を調べる	
12	利用者とのコミュニケーション②	コミュニケーション技法を調べる	
13	利用者とのコミュニケーション③	ボランティア体験をまとめる	
14	記録の重要性と書き方①	ボランティア体験をまとめる	
15	記録の重要性と書き方②	レポートをまとめる	
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて授業時に提示することとする。	
学びの手立て	<p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、受け身ではなく積極的に参加すること。また、課題についてはしっかりと取り組み、提出期限を守ること。一方、社会福祉士基礎科目については、関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に並行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」「相談援助演習Ⅰ」等は重要である。</p>		
評価	個別発表30%、グループ発表20%、レポート作成25%、ゼミへの主体的参加25%、等を元に総合的に評価する。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「現場体験学習」の振り返りは、関連科目である「相談援助演習Ⅱ」で行う。また本科目の発展的科目には、「相談援助実習指導Ⅱ・Ⅲ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。「相談援助実習」がスムーズに展開できるようにしっかりと学ぶこと。そして最終的には、ディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

実践教育を重視するポリシーに基づき、理論と実践を結びつける基礎科目として位置づけている。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅰ	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	講義の最後に受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	相談援助実習は相談援助にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を学ぶ。相談援助実習の事前学習にあたる本科目は、「現場体験学習」を通して実習の準備を行う。具体的には、「現場体験学習」の意義や施設理解を深める。特に地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解に焦点を置く。	ボランティア活動等を通して積極的に福祉実践の現場に足を運びましょう。講義で習得する知識と福祉実践とがつながって初めて理解できることがたくさんあります。
到達目標	授業及び「現場体験学習」を通して、地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (授業の主旨・展開・最終目標について)	グローバル定義について調べる
	2	社会福祉士の価値と倫理① ソーシャルワークのグローバル定義	倫理綱領について調べる
	3	社会福祉士の価値と倫理② 倫理綱領	守秘義務について調べる
	4	社会福祉士の価値と倫理③ 守秘義務、利用者のプライバシーと個人情報	グループで施設理解に向けて準備
	5	現場体験学習に向けてのオリエンテーションⅠ (体験学習の主旨説明)	グループで施設理解に向けて準備
	6	施設理解① 高齢者施設	施設の法的根拠について調べる
	7	施設理解② 障害児者施設 (児童)	施設の法的根拠について調べる
	8	施設理解③ 障害児者施設 (就労、地域生活支援)	施設の法的根拠について調べる
	9	施設理解④ 児童施設	施設の法的根拠について調べる
	10	現場体験学習に向けてのオリエンテーションⅡ (学習配属先、事前訪問方法、その他)	コミュニケーション技法を調べる
	11	利用者とのコミュニケーション①	コミュニケーション技法を調べる
	12	利用者とのコミュニケーション②	コミュニケーション技法を調べる
	13	利用者とのコミュニケーション③	ボランティア体験をまとめる
14	記録の重要性と書き方①	ボランティア体験をまとめる	
15	記録の重要性と書き方②		
16	まとめ	レポートをまとめる	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて授業時に提示する。		
	学びの手立て 演習形式の科目なので、積極的に講義に参画しましょう。また、課題についてはしっかりと取り組み、提出期限を守りましょう。 本科目と社会福祉士基礎科目は内容が重なっているため、科目間の関連性を意識しながら受講しましょう。特に並行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」「相談援助演習Ⅰ」等は重要です。		
	評価 個別発表30%、グループ発表20%、レポート作成25%、ゼミへの主体的参加25%、等を元に総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「現場体験学習」の振り返りは、関連科目である「相談援助演習Ⅱ」で行う。また本科目の発展的科目には、「相談援助実習指導Ⅱ・Ⅲ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。「相談援助実習」がスムーズに展開できるようにしっかりと学ぶこと。そして最終的には、ディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーに実践活動を重視した教育を掲げている。本
科目を理論と実践を結びつける基礎科目として位置づけている。

[/実験実習]

科目 基本 情報	科目名 相談援助実習指導 I	期 別 前期	曜日・時限 金 2	単 位 2
	担当者 比嘉 昌哉	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			授業の最後に受け付けます。 比嘉研究室；5-418、mahiga@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい 相談援助実習では相談援助にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。そのため、本科目では本実習の事前学習：「現場体験学習」として現場に出向くが、その準備を行う。具体的には、「現場体験学習」の意義や施設理解を深める。特に地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解に焦点を置く。	メッセージ 今年度はCOVID-19の影響でTeams等を活用しての授業展開になります。ポータル等の連絡をこまめに確認して下さい(現場理解のために「現場体験学習」だけではなく、積極的に他のボランティア活動を通して施設等へ足を運んでください…コロナの終息を待っての活動となります)。
	到達目標 授業及び「現場体験学習」を通して、地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (授業の主旨・展開・最終目標について)	グローバル定義について調べる
	2	社会福祉士の価値と倫理① ソーシャルワークのグローバル定義	倫理綱領について調べる
	3	社会福祉士の価値と倫理② 倫理綱領	守秘義務について調べる
	4	社会福祉士の価値と倫理③ 守秘義務、利用者のプライバシーと個人情報	グループで施設理解に向けて準備
	5	現場体験学習に向けてのオリエンテーション I (体験学習の主旨説明)	グループで施設理解に向けて準備
	6	施設理解① 高齢者施設	施設の法的根拠について調べる
	7	施設理解② 障害児者施設 (児童)	施設の法的根拠について調べる
	8	施設理解③ 障害児者施設 (就労、地域生活支援)	施設の法的根拠について調べる
	9	施設理解④ 児童福祉施設	施設の法的根拠について調べる
	10	現場体験学習に向けてのオリエンテーション II (学習配属先、事前訪問方法、その他)	コミュニケーション技法を調べる
	11	利用者とのコミュニケーション①	コミュニケーション技法を調べる
	12	利用者とのコミュニケーション②	コミュニケーション技法を調べる
	13	利用者とのコミュニケーション③	ボランティア体験をまとめる
	14	記録の重要性と書き方①	ボランティア体験をまとめる
15	記録の重要性と書き方②	レポートをまとめる	
16	総まとめ	全体の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて授業時に提示することとする。		
	学びの手立て 本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、受け身ではなく積極的に参加すること。また、課題についてはしっかりと取り組み、提出期限を守ること。一方、社会福祉士基礎科目については、関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に並行して受講する「相談援助の基盤と専門職 I」「相談援助演習 I」等は重要である。		
	評価 個別発表30%、グループ発表20%、レポート作成25%、ゼミへの主体的参加25%、等を元に総合的に評価する。		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 「現場体験学習」の振り返りは、関連科目である「相談援助演習 II」で行う。また本科目の発展的科目には、「相談援助実習指導 II・III」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。「相談援助実習」がスムーズに展開できるようにしっかりと学ぶこと。そして最終的には、ディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。
-----------------------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーに実践活動を重視した教育を掲げている。本
科目を理論と実践を結びつける基礎科目として位置づけている。

[/実験実習]

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	相談援助実習指導Ⅰ	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	2年	講義の最後に受け付けます。	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	<p>*相談援助実習では相談援助にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。そのため、本科目では本実習の事前学習：「現場体験学習」として現場に出向きその準備を行う。具体的には、「現場体験学習」の意義や施設理解を深める。特に地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解に焦点を置く。</p>	<p>現場理解のために、授業関連だけではなく、ボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。</p>
到達目標	授業及び「現場体験学習」を通して、地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (授業の主旨・展開・最終目標について)	グローバル定義について調べる
	2	社会福祉士の価値と倫理① ソーシャルワークのグローバル定義	倫理綱領について調べる
	3	社会福祉士の価値と倫理② 倫理綱領	守秘義務について調べる
	4	社会福祉士の価値と倫理③ 守秘義務、利用者のプライバシーと個人情報	グループで施設理解に向けて準備
	5	現場体験学習に向けてのオリエンテーションⅠ (体験学習の主旨説明)	グループで施設理解に向けて準備
	6	施設理解① 高齢者施設	施設の法的根拠について調べる
	7	施設理解② 障害児者施設 (児童)	施設の法的根拠について調べる
8	施設理解③ 障害児者施設 (就労、地域生活支援)	施設の法的根拠について調べる	
9	施設理解④ 児童施設	施設の法的根拠について調べる	
10	現場体験学習に向けてのオリエンテーションⅡ (学習配属先、事前訪問方法、その他)	コミュニケーション技法を調べる	
11	利用者とのコミュニケーション①	コミュニケーション技法を調べる	
12	利用者とのコミュニケーション②	コミュニケーション技法を調べる	
13	利用者とのコミュニケーション③	ボランティア体験をまとめる	
14	記録の重要性と書き方①	ボランティア体験をまとめる	
15	記録の重要性と書き方②	レポートをまとめる	
16	まとめ		
テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて授業時に提示することとする。		
学びの手立て	<p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、受け身ではなく積極的に参加すること。また、課題についてはしっかりと取り組み、提出期限を守ること。一方、社会福祉士基礎科目については、関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に並行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」「相談援助演習Ⅰ」等は重要である。</p>		
評価	個別発表30%、グループ発表20%、レポート作成25%、ゼミへの主体的参加25%、等を元に総合的に評価する。		

学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「現場体験学習」の振り返りは、関連科目である「相談援助演習Ⅱ」で行う。また本科目の発展的科目には、「相談援助実習指導Ⅱ・Ⅲ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。「相談援助実習」がスムーズに展開できるようにしっかりと学ぶこと。そして最終的には、ディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。</p>
-----------------------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲根 建作	3年	授業の最後に受付けます。	

学びの準備	ねらい 本科目は、相談援助実習の事前学習を行うことが主たる目的である。実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、施設（機関）、職員、地域を学習する。また、実習計画書を作成する。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても再確認する。	メッセージ 相談援助実習に向けて基礎知識を復習すると共に実習に向けて様々な準備をします。意識を高く持って臨みましょう。
	到達目標 相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習施設/機関の理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法実習施設/機関の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション① 演習概要、関連科目との連携	ミニレポートの作成
	2	オリエンテーション② 相談援助実習の意義、グループ学習の準備	担当テーマについてグループ学習
	3	実習分野の政策動向① 国内および県内の動向	担当テーマについてグループ学習
	4	実習分野の政策動向② 権利擁護と共生社会	担当テーマについてグループ学習
	5	配属施設の理念、方針の理解	配属施設について調べる
	6	配属施設の事業内容、担い手の役割の理解	配属施設について調べる
	7	配属施設の利用者および家族の理解	利用者、家族について調べる
	8	ソーシャルワーカーの倫理綱領、グローバル定義の理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	9	実習経験者の講話	講話の感想レポート作成
	10	支援計画の立て方の理解	支援計画の事例を調べる
	11	実習日誌の書き方の理解①	日誌を書いてみる
	12	実習日誌の書き方の理解②	日誌を書いてみる
	13	実習計画書の作成①	実習計画書を作成する
14	実習計画書の作成②	実習計画書を修正する	
15	事前訪問の準備	実習計画書を修正する	
16	まとめ	実習の最終準備を行う	
テキスト・参考文献・資料など 社会福祉士養成協会 『社会福祉士相談援助実習（第2版）』 中央法規出版			
学びの手立て 履修の心構え：相談援助実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために：積極的にボランティアを行い視野を広げましょう。関連文献を読みましょう。 地域の社会資源を学ぶ：自身の居住する市町村の社会福祉に関する制度や社会資源の情報を調べてください。			
評価 グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成します。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	授業の最後に受付けます。	

学びの準備	ねらい 本科目は、相談援助実習の事前学習を行うことが主たる目的です。実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、施設（機関）、職員、地域を学習する。また、実習計画書を作成する。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても再確認します。	メッセージ 相談援助実習に向けて基礎知識を復習すると共に実習に向けて様々な準備をします。意識を高く持って臨みましょう。
	到達目標 相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習施設/機関の理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法実習施設/機関の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。	

学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション① 演習概要、関連科目との連携
	2	オリエンテーション② 相談援助実習の意義、グループ学習の準備
	3	実習分野の政策動向① 国連を中心とする国際社会の動向
	4	実習分野の政策動向② 国内および県内の動向
	5	配属施設の理念、方針の理解
	6	配属施設の事業内容、担い手の役割の理解
	7	配属施設の利用者および家族の理解
	8	ソーシャルワーカーの倫理綱領、グローバル定義の理解
学びの実践	9	支援計画の立て方の理解①
	10	支援計画の立て方の理解②
	11	実習日誌の書き方の理解①
	12	実習日誌の書き方の理解②
	13	実習計画書の作成①
	14	実習計画書の作成②
	15	事前訪問の準備
	16	まとめ
テキスト・参考文献・資料など 指定のテキストはありません。随時資料を配布します。		
学びの手立て 履修の心構え：相談援助実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために：積極的にボランティアを行い視野を広げましょう。関連文献を読みましょう。		
評価 グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	授業の最後に受付けます。 比嘉研究室；5-418、mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、相談援助実習の事前学習を行うことが主たる目的である。実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、施設（機関）、職員、地域を学習する。また、実習計画書を作成する。社会福祉士の倫理綱領についても再確認する。</p>	<p>相談援助実習に向けて基礎知識を復習するとともに実習に向けて様々な準備をする。意識を高く持って臨みましょう。今年度はCOVID-19の影響でTeams等を活用しての授業展開になります。ポータル等の連絡をこまめに確認して下さい。</p>
到達目標	<p>相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習施設/機関の理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法実習施設/機関の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション① 演習概要、関連科目との連携	ミニレポートの作成
	2	オリエンテーション② 相談援助実習の意義、グループ学習の準備	担当テーマについてグループ学習
	3	実習分野の政策動向① 国連を中心とする国際社会の動向	担当テーマについてグループ学習
	4	実習分野の政策動向② 国内および県内の動向	配属施設について調べる
	5	配属施設の理念、方針の理解	配属施設について調べる
	6	配属施設の事業内容、担い手の役割の理解	利用者、家族について調べる
	7	配属施設の利用者および家族の理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	8	社会福祉士の倫理綱領、グローバル定義の理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	9	支援計画の立て方の理解①	支援計画の事例を調べる
	10	支援計画の立て方の理解②	支援計画の事例を調べる
	11	実習日誌の書き方の理解①	日誌を書いてみる
	12	実習日誌の書き方の理解②	日誌を書いてみる
	13	実習計画書の作成①	実習計画書を作成する
14	実習計画書の作成②	実習計画書を修正する	
15	事前訪問の準備	実習計画書を修正する	
16	まとめ	実習の最終準備を行う	
テキスト・参考文献・資料など	指定のテキストは特になし。必要に応じ適宜提示する。		
学びの手立て	履修の心構え：相談援助実習に向けた準備を一つひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。学びを深めるために：積極的にボランティアを行い視野を広げましょう。関連文献を読みましょう。		
評価	個別発表20%、グループ発表20%、実習計画作成10%、レポート作成25%、ゼミへの主体的参加25%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	授業の前後に受付けます。	

学びの準備	ねらい 本科目は、相談援助実習の事前学習を行うことが主たる目的である。実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、施設（機関）、職員、地域を学習する。また、実習計画書を作成する。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても再確認する。	メッセージ ソーシャルワークの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共に、相談援助実習に向けて様々な準備をします。自らの実習テーマや達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。
	到達目標 相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習機関／施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。 実習機関／施設が地域社会の中の機関／施設であることを理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション①：相談援助実習・実習指導における学習方法や学習形態、学習内容について
	2	オリエンテーション②：相談援助実習の意義、評価の内容と仕組みについて
	3	オリエンテーション③：スーパービジョンの意義及び構造について
	4	実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解
	5	実習機関・施設における関連業務（介護等）の基本的理解、関連職種の配置や業務について
	6	実習機関・施設の利用者及び家族の理解
	7	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
	8	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解
		時間外学習の内容
		ミニレポートの作成
		「前年度の実習報告書」を読む
		「個人調書」を作成する
		担当テーマについてグループ学習
		担当テーマについてグループ学習
		担当テーマについてグループ学習
		倫理綱領、グローバル定義を復習
		倫理綱領、グローバル定義を復習
		現場体験学習の日誌を振り返る
		行事等参加後の日誌を書いてみる
		実習テーマを考える
		達成目標を考える
		「相談援助演習Ⅲ」の復習
		「個別支援計画」の事例を調べる
		「実習計画書」を修正する
		実習の最終確認を行う
	テキスト・参考文献・資料など 指定のテキストはありません。随時資料を配布します。	
	学びの手立て 履修の心構え：相談援助実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために：積極的にボランティアを行い視野を広げましょう。関連文献を読みましょう。	
	評価 グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会福祉専門職に求められる高い知識と経験を演習メンバーと共に培うことができる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲根 建作	3年	演習の最後に受付けます。	

学びの準備	ねらい 相談援助実習で経験したことを深め、さらに相談援助の可能性や課題を考えていきます。	メッセージ ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 ゼミ生とディスカッションを重ねてソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。 教室内外での報告会を通して、経験し分析考察したことを発表するスキルを身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
	2	振り返りグループワーク	グループ毎のレポートを作成する。
	3	個別事後学習（達成できたこと、できなかったこと、次の目標）	事後学習レポートを作成する。
	4	個別面談①	配属先ごとに発表準備を行う
	5	個別面談②	配属先ごとに発表準備を行う
	6	相談援助実習報告会①	ディスカッションを分析する
	7	相談援助実習報告会②	ディスカッションを分析する
	8	相談援助実習報告会③	ディスカッションを分析する
9	相談援助実習報告会④	ディスカッションを分析する	
10	相談援助実習指導者の講演	講演の感想文を作成する	
11	実習先訪問/相談援助実習報告会	ディスカッションを分析する	
12	相談援助実習報告会⑤、 報告書作成に向けて話し合い	報告書を作成する	
13	報告書作成①	報告書を作成する	
14	報告書作成②	報告書を製本する	
15	実習指導者との交流会	報告書をもとに実習振り返り	
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 指定のテキストは特にありません。		
	学びの手立て 本演習は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。実習後も積極的に施設を訪問したり文献を通して分析をしましょう。		
	評価 実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート25%、ゼミへの主体的参加25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助演習Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会福祉専門職に求められる高い知識と経験を演習メンバーと共に培うことができる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	演習終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい 相談援助実習で経験したことを深め、さらに相談援助の可能性や課題を考えていきます。	メッセージ ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 ゼミ生とディスカッションを重ねてソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。教室内外での報告会を通して、経験し分析考察したことを発表するスキルを身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
	2	相談援助実習報告の準備①、個別面談①	配属先ごとに発表準備を行う
	3	相談援助実習報告の準備②、個別面談②	配属先ごとに発表準備を行う
	4	相談援助実習報告の準備③、個別面談③	配属先ごとに発表準備を行う
	5	相談援助実習報告①	ディスカッションを分析する
	6	相談援助実習報告②	ディスカッションを分析する
	7	相談援助実習報告③	ディスカッションを分析する
	8	4ゼミ合同実習報告会	他分野の実習報告概要をまとめる
	9	相談援助実習先訪問①	実習施設訪問の感想をまとめる
	10	相談援助実習報告④	ディスカッションを分析する
	11	相談援助実習指導者の講演	講演会の感想をまとめる
	12	相談援助実習先訪問②	実習施設訪問の感想をまとめる
	13	相談援助実習報告⑤、報告書作成に向けて話し合い	報告書を作成する
	14	実習報告書作成①	報告書を作成する
15	実習報告書作成②	報告書をもとに実習を振り返る	
16	まとめ	演習で学んだことを振り返る	
	テキスト・参考文献・資料など 指定のテキストは特にありません。		
	学びの手立て 本演習は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。実習後も積極的に施設を訪問したり文献を通して分析をしましょう。		
	評価 演習中の実習報告内容 30%、実習報告書20%、ゼミへの主体的参加30%、企画グループ運営20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助演習Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会福祉専門職に求められる高い知識と経験を演習メンバーと共に培うことができる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	授業の最後に受け付ける。 比嘉研究室；5-418、mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 相談援助実習で個別に経験したことを深め、さらに相談援助の可能性や課題についてゼミ全体で考えていく。	メッセージ ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 ゼミ生とディスカッションを重ねてソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。 教室内外での報告会を通して、経験し分析考察したことを発表するスキルを身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 9/29	振り返りの意義を考える
	2	グループでの振り返り① ※10/6 ※=対面	日誌を通して実習の振り返り
	3	グループでの振り返り② 10/13	日誌を通して実習の振り返り
	4	グループでの振り返り③ ※10/20	日誌を通して実習の振り返り
	5	グループでの振り返り④ 10/27	日誌を通して実習の振り返り
	6	個別面談① ※11/10	個別報告の準備
	7	個別面談② 11/17	個別報告の準備
	8	相談援助実習報告会①（個別ゼミ） ※11/24	ディスカッションを分析する
9	相談援助実習報告会②（個別ゼミ） 12/1	ディスカッションを分析する	
10	相談援助実習報告会③（施設訪問） ※12/8	ディスカッションを分析する	
11	相談援助実習報告会④（合同ゼミ） 12/15	ディスカッションを分析する	
12	相談援助実習報告会⑤（合同ゼミ） ※12/22	ディスカッションを分析する	
13	報告書作成① 1/5	報告書を作成する	
14	報告書作成② ※1/12	報告書を製本する	
15	実習指導者との交流会 1/19	報告書をもとに実習振り返り	
16	まとめ ※1/26		
	テキスト・参考文献・資料など 指定のテキストは特になし。必要に応じ適宜提示する。		
	学びの手立て 本授業は、相談援助実習の事後学習として位置付けられる。実習後も積極的に施設を訪問したり文献を通して学びを深めましょう。		
	評価 実習報告内容①(個別ゼミ) 25%、実習報告内容②(全体ゼミ等) 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助演習Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

医療・保健・福祉の連携や、多職種と協働できる社会福祉専門職のあり方について、具体的かつ実際に理解することができる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	ポータル授業連絡から返信、教員のE-mailへ連絡してください。	

学びの準備	ねらい ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。	メッセージ ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	ミニレポートを作成する
	2	(対) 実習成果の確認及び整理 (グループ) ①: 「最も印象に残っている日誌の記録」について	ディスカッションを分析する
	3	(特) 実習成果の確認及び整理 (グループ) ②: 「担当 (陪席) した面接の記録」について	ディスカッションを分析する
	4	(対) 実習成果の確認及び整理 (グループ) ③: 「個別支援計画 (事例のまとめ)」について	ディスカッションを分析する
	5	(特) 実習成果の確認及び整理 (個別) ①: 「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	6	(対) 実習成果の確認及び整理 (個別) ②: 「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	7	(特) 実習成果の確認及び整理 (個別) ③: 「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	8	(対) 相談援助実習ゼミ報告会①: 実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	9	(特) 相談援助実習ゼミ報告会②: 実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	10	(対) 相談援助実習ゼミ報告会③: 実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	11	(特) 合同実習報告会: 実習の評価全体総括	ディスカッションを分析する
	12	(対) 実習総括レポート (報告書) 作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
	13	(特) 報告書作成①	報告書を作成する
	14	(対) 報告書作成②	報告書を作成する
15	(特) 報告書作成③	報告書を作成する	
16	(対) まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える	
テキスト・参考文献・資料など テキスト: 『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。 参考文献・資料等: 授業時に随時紹介します。			
学びの手立て 本科目は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献学習を行うとともに、学外での研修会や講演会にも積極的に参加しましょう。			
評価 実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助演習Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げている。
本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけている。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助の理論と方法Ⅱ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝 (6回)、島袋 恭子 (5回)、砂川 亜紀美 (5回)	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本科目では相談援助における人と環境との交互作用に関する理論や相談援助の対象、さまざまな実践モデルについて理解する。さらに、相談援助の過程とそれに関係する知識と技術、相談援助の実際について学ぶ。	将来、社会福祉専門職を目指す皆さんにとって、本科目は基幹となる科目である。社会福祉にかかる専門的知識等の習得をはじめ、自らの将来の仕事イメージしながら受講してほしい。

到達目標	本科目を受講することで、社会福祉専門職(ソーシャルワーカー)の仕事が理解できるようになる。本科目では、相談援助における人と環境の交互作用に関する理論や相談援助(ソーシャルワーク)の対象、そのプロセス及びさまざまな実践モデルとそのアプローチについて理解できる。具体的には、ケースマネジメント、アウトリーチ、記録及び事例研究の技術等を身につけることができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (特例授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	2	人と環境の交互作用① I : 第3章 (特例授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	3	人と環境の交互作用② I : 第3章 (特例授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	4	相談援助の対象 II : 第1章 (特例授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	5	ケースマネジメント II : 第2章 (特例授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	6	アウトリーチ① I : 第7章 (特例授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	7	アウトリーチ② I : 第7章 (特例授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	8	記録の技術① I : 13章 (特例授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	9	記録の技術② I : 13章 (特例授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	10	個人情報の保護の意義と留意点① II : 第11章 (対面授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	11	個人情報の保護の意義と留意点② II : 第11章 (対面授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	12	相談援助における情報通信技術(IT)の活用① II : 12章 (対面授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	13	相談援助における情報通信技術(IT)の活用② II : 12章 (特例授業)	1回目に配布される事前学習を行う
	14	事例研究① II : 13章 (対面授業)	1回目に配布される事前学習を行う
15	事例研究② II : 13章 (対面授業)	1回目に配布される事前学習を行う	
16	まとめ (対面授業)	全体の振り返りをしておく	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	1. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015) : 『相談援助の理論と方法Ⅰ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 2. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015) : 『相談援助の理論と方法Ⅱ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 3. その他、必要に応じて授業時に示すこととする。

学びの手立て	本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、授業は受け身ではなく、積極的に参加すること。また、課題についてしっかりと取り組み、提出期限はちゃんと守ること。一方、社会福祉士の関連科目(基礎科目)については関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に併行して受講する「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」等は重要である。
--------	--

評価	1) 出席時間数が3分2に満たないものは「不可」、2) 講義初日に配布する資料に授業外課題の内容と提出日時が提示されるのでその提出(50%)、3) 講義の中で行う課題・ワークなどの提出(50%)。4) 学期末テスト・課題で評価する。学期末テスト・課題は課されないこともある。 ※ 2)と3)に関しては、課題ごとのポイントを設定し、4)と合わせての合計が100点となるように設定する。60点以下を不可とする。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目の発展的科目には「相談援助の理論と方法Ⅱ～Ⅳ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。その他、併行して「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」等を受講し、さらに本科目受講後には「相談援助実習指導」等で学びの継続を行うこと。そして最終的には、本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーとして実践活動を意識した教育を行います。本科目にて理論と実践を結び付けられるような視点を学びます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助の理論と方法Ⅲ	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-當間 学	2年	yasuragi119@at.au-hikari.ne.jp	

学びの準備	ねらい クライアント・システムに対する支援における全体像を把握して、個別の状況に応じた「根拠に基づいた実践」を実施できるように、ソーシャルワークの基礎的な理論や実践モデル・アプローチを理解できるようにします。	メッセージ ソーシャルワーカーの役割ともいえる、課題を抱えた方々からの相談に応じて、適切なサービス利用の調整や関係機関及び専門職、ボランティアや地域の方々等との連携について、地域における課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成等、を学習していきましょう。
	到達目標 1. 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する（介護保険法による介護予防サービス計画等についての理解も含む）。 4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解する。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	(特) 授業の目的・ねらい・概要・到達目標などについて説明、オリエンテーション	各授業に対する課題レポートや	
	2	(特) ケアプランの作成・実施の特徴、ニーズの捉え方の個人演習	確認テストについて取り組むこと	
	3	(特) グループを活用した相談援助	同上	
	4	(特) グループを活用した相談援助	同上	
	5	(特) コーディネーションの目的と意義、その方法や技術・留意点	同上	
	6	(特) ネットワーキングの目的と意義、その方法	同上	
	7	(特) 相談援助における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的及び方法と留意点	同上	
	8	(特) さまざまな実践モデルとアプローチⅠ（実践モデルとその意味、治療・生活）	同上	
	9	(特) Ⅱ（ストレングスマデルと演習、ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル）	同上	
	10	(特) 実践モデルとアプローチⅡ（心理社会的・機能的・問題解決の各アプローチ）	同上	
	11	(特) Ⅲ（課題中心・危機介入・行動変容の各アプローチ）	同上	
	12	(特) 実践モデルとアプローチⅢ（エンパワメント・ナラティブ・解決志向などの各アプローチ）	同上	
	13	(特) スーパービジョンの意義と目的及び方法と留意点	同上	
	14	(特) スーパービジョン演習、コンサルレーション	同上	
15	(特) ケースカンファレンスの意義と目的及び運営と展開方法、ケースカンファレンス演習	同上		
16	(特) 後期試験	後期試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など	1. 社会福祉士養成講座編集委員会：新社会福祉士養成講座『相談援助の理論と方法Ⅱ』、中央法規、2,600円（税別） 2. その他、必要に応じて授業の際に提示します。		
学びの手立て	講義での知識の習得と演習を取り入れてのより一層の理解の促進を図りたいと思います。そのためにも、積極的に授業に参加するとともに疑問点については調べたり質問することで理解を深めましょう。関連科目として、「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」がありますので理解することを進めます。			
評価	授業への出席状況、演習の取り組み、課題に対するレポートや確認テスト、後期の評価試験による総合的な評価を行います。「演習の取り組みと課題に対するレポート及び確認テスト30%、後期評価試験70%」			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として、社会福祉士国家試験に必要な科目（相談援助の基盤と専門職、相談援助演習等）があげられます。本科目を修得後、「相談援助実習」等で実践を行う場がありますので理解度について確認できると思われま。将来的には、本大学を卒業後、「福祉・医療・保健・教育等の各分野で中核的な活躍ができるような人間性と能力を兼ね備えた人材」の社会福祉士として活躍できることを期待します。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助の理論と方法Ⅳ	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子、他	2年	初回講義時に伝える連絡先、もしくは、5424-1研究室を訪ねてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、ソーシャルワークの実践の最前線で活躍しているワーカーを講師として招へいし、具体的な事例をもとにソーシャルワークの実際を学びます。相談援助の理論と方法ⅠⅡⅢで学んだ知識を応用しながら、ソーシャルワークとは何かを深めます。講義形式ですが、グループワークも行います。</p> <p>到達目標</p> <p>本科目を受講することでソーシャルワークの理論と実践をつなげて考えることができます。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーの働きについて具体的に理解できる。 ・ソーシャルワークの定義、構造と機能、実践モデルとそのアプローチについて理解できる。 ・ソーシャルワークの技術（アウトリーチ、面接技術、ケースマネジメント、スーパービジョン・コンサルテーション等）について理解できる。 	<p>本科目は、複数のソーシャルワーカーを講師として招へいした授業形式です。障害児者福祉、高齢者福祉、社会福祉協議会、病院、女性への支援など多様な分野の講師が最新の取組みを紹介してくれます。自らの将来の姿をイメージしながら受講するとよいでしょう。なお、講義のコーディネータは専任教員（岩田）が担当し、SATAが講義のサポートをします。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	教科書の指定の章をまとめる
	2	発達障害児者の暮らしとソーシャルワーク①	課題に取り組む
	3	発達障害児者の暮らしとソーシャルワーク②	ミニレポートを作成する
	4	発達障害児者の暮らしとソーシャルワーク③	教科書の指定の章をまとめる
	5	社会福祉協議会の地域づくりとソーシャルワーク①	課題に取り組む
	6	社会福祉協議会の地域づくりとソーシャルワーク②	ミニレポートを作成する
	7	社会福祉協議会の地域づくりとソーシャルワーク③	教科書の指定の章をまとめる
	8	病院におけるソーシャルワーク①	課題に取り組む
	9	病院におけるソーシャルワーク②	ミニレポートを作成する
	10	病院におけるソーシャルワーク③	教科書の指定の章をまとめる
	11	女性に対するソーシャルワーク①	課題に取り組む
	12	女性に対するソーシャルワーク②	ミニレポートを作成する
	13	高齢者の地域包括ケアとソーシャルワーク①	教科書の指定の章をまとめる
	14	高齢者の地域包括ケアとソーシャルワーク②	課題に取り組む
15	高齢者の地域包括ケアとソーシャルワーク③	課題レポートをまとめる	
16	まとめ	課題レポートをまとめる	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉士養成講座編集委員会：『相談援助の理論と方法Ⅰ』最新版、中央法規出版社 2. 社会福祉士養成講座編集委員会：『相談援助の理論と方法Ⅱ』最新版、中央法規出版社 <p>参考文献：必要に応じて講義時に提示します。</p>
----	---

学びの手立て	<p>本科目は、講義形式と演習形式で進めます。事例検討の発表やテーマにもとづくディスカッションを行いますので積極的に参加しましょう。また、各教員の課す課題についてもしっかりと取り組みましょう。課題提出期限は守りましょう。</p> <p>また、社会福祉関連科目と連動する内容が多いので、科目間の関連性も意識しながら受講しましょう。特に事前の「相談援助の理論と方法Ⅰ～Ⅲ」、併行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」「相談援助演習Ⅱ・Ⅲ」等は重要です。</p>
--------	---

評価	<p>担当講師がそれぞれ評価した成績を総合して最終評価を出します。各担当講師は、最終レポート50%、毎回のリアクションペーパーの内容20%、グループワークの発表内容20%、受講態度10%を目安に評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会福祉士受験資格に必要な諸科目との関連しを意識しながら学びを深めていきましょう。また、相談援助実習に向けてソーシャルワーカーの役割とは何か考えを深めましょう。最終的には、本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」を目指しましょう。</p>
-------	---